

2023年2月8日

報道関係者各位

開館10周年記念展 第2部

歌麿と北斎

— 時代を作った浮世絵師 —

会期：2023年6月11日(日)～12月10日(日)



① 展覧会メインビジュアル

見どころ1 歌麿 vs 北斎 美人画対決

見どころ2 歌麿最晩年の傑作「深川の雪」を徹底解剖

見どころ3 創造と革新 北斎、森羅万象を描く！

開館10周年
特別企画

- 2023年9月30日(土) 河野元昭氏(静嘉堂文庫美術館館長)×小林忠館長 特別対談
- 10周年の感謝をこめて お誕生日ペア特別ご招待
- 見て・食べて・買って オリジナルエコバッグをGET

岡田美術館(館長・小林忠)は、2023年6月11日(日)から12月10日(日)まで、開館10周年記念展 第2部『歌麿と北斎 —時代を作った浮世絵師—』を開催します。今秋、開館10周年を迎える当館では、これまでの展覧会において特に人気の高かった画家4人に焦点を当て、2人ずつ2部に分けて特別展を開催しています。

第2部に登場するのは、浮世絵師の喜多川歌麿と葛飾北斎。次々と新しいスタイルの作品を生み出し、大衆の心をつかんだ浮世絵界のスターです。

本展では、歌麿と北斎の肉筆美人画対決をはじめ、歌麿晩年の傑作「深川の雪」(展示期間：9/8～12/10)や、北斎の版画の代表作「富嶽三十六景」、春画の名品「浪千鳥」を紹介すると共に、2人と同時代およびその前後の画家の作品約40件を展示します。

また、開館10周年記念展第1部・2部の会期中は、『10周年の感謝をこめて お誕生日ペア特別ご招待』を実施しています。誕生日当日のご本人と同伴者1名の入館料が無料になります。

見どころ1 歌麿 vs 北斎 美人画対決

浮世絵の肉筆美人画から、近代の巨匠まで美人画勢ぞろい！

歌麿以前の美人画では、完璧な美しさを誇る「理想の女性」が好まれましたが、歌麿が描いたのは、人間らしい感情をもった「生身の女性」でした。その表情や仕草に心の動きをも込めた歌麿美人の特質は北斎にも受け継がれ、一人一人に個性をそなえた女性像が生み出されました。歌麿と北斎による美人画の名品を、同時に見比べていただける貴重な機会です。本展では、北斎の師・勝川春章^{しゅんしょう}や、近代日本画の巨匠・上村松園^{しょうえん}による作品を併せて展示。美人画の豪華競演をお楽しみいただけます。

【歌麿美人】



②喜多川歌麿「三美人図」
江戸時代中期 18～19世紀

歌麿だから描けた、花魁たちが見せるリラックスした素の表情。



③喜多川歌麿「芸妓図」
江戸時代中期 18～19世紀

美しい装いできりっとポーズを決める、いかにも粋な江戸の芸者。

【北斎美人】



④葛飾北斎「夏の朝」
江戸時代後期 19世紀初頭

北斎50歳前後、美人画の頂点を示す名品。季節や時間、心情も描き出す。



⑤葛飾北斎「傾城図」
江戸時代後期 19世紀前半

凄みのきいた妖艶な女性像。北斎50代の数少ない肉筆美人画の一つ。

見どころ2 歌麿最晩年の傑作「深川の雪」を徹底解剖

「深川の雪」の魅力と、隠された謎に迫る！

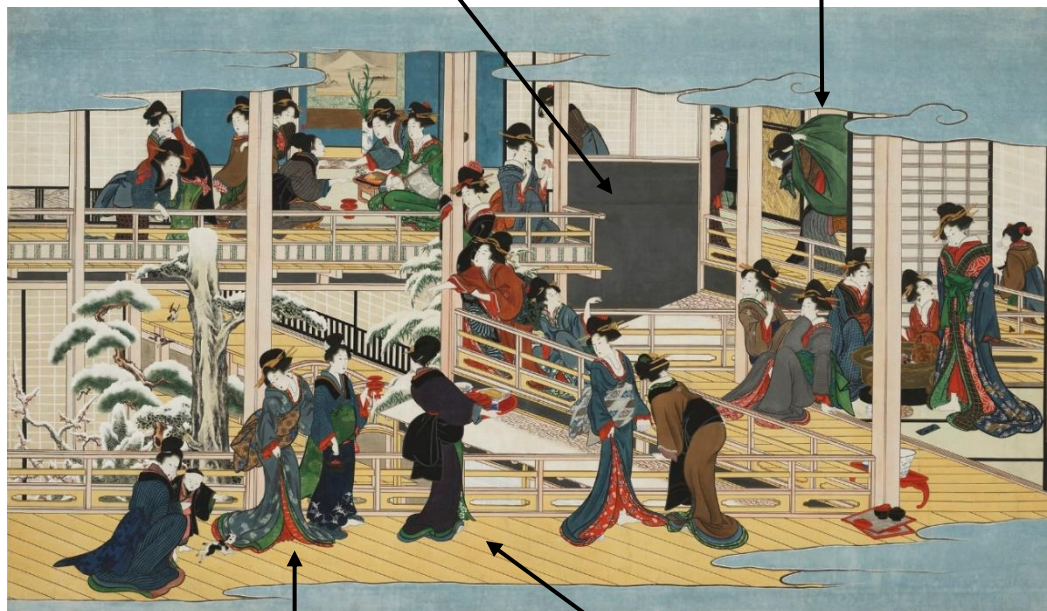
「深川の雪」は、かつて栃木の豪商・善野家^{ぜんのけ}が所蔵し、昭和27年（1952）の展示を最後に60年以上ものあいだ行方不明でした。縦2m、横3.5mの大画面に、芸者や遊女をはじめ、26名の女性たちが躍動する歌麿の集大成です。2012年、奇跡的に再発見されて当館の収蔵となり、たびたび展示をしてきましたが、絵の中に隠された意味や作品にまつわる数々の謎について、十分にご紹介したことはありませんでした。本展では、一つ一つの場面や登場人物、舞台となった深川という場所、栃木とのつながりなどに注目し、さまざまな角度からこの大作を読み解きます。

紙継ぎの謎

紙継ぎは1か所のみ。当時の日本には珍しい、大きな紙の正体は？

なぜ深川？

通い夜具の風習は深川の象徴。
三部作の最後に深川が選ばれた理由は？



構図の妙

廊下の構造や、人物の仕草によって鑑賞者の視線を誘導する巧みな手法。

⑥喜多川歌麿「深川の雪」
江戸時代 享和2～文化3年
(1802～06)頃
※展示期間：9/8～12/10
上記期間外は高精細複製画を展示

歌麿と栃木

善野家の家紋「九枚笹」をつけた女性。
歌麿と栃木の関わりは？

美しい^{かるこ}軽子

深川で「軽子」と呼ばれた仲居の役割をする女性たちも華を添える。

<歌麿「雪月花」三部作>

歌麿の肉筆画の大作「品川の月」（フリーア美術館蔵）、
「吉原の花」（ワズワース・アセーニウム美術館蔵）、
「深川の雪」（当館蔵）は「雪月花」三部作と呼ばれています。

明治期に日本から流出し、「月」と「花」はアメリカの美術館の所蔵となりました。本展では、原寸大の高精細複製画を展示します。



展示風景（イメージ）左から「品川の月」、「吉原の花」、「深川の雪」
※「品川の月」、「吉原の花」は高精細複製画を展示

見どころ3 創造と革新 北斎、森羅万象を描く！

美人、風景、花鳥…常に挑戦し続けた90年の生涯に注目

肉筆浮世絵といえば、大半は美人画が占めます。ところが北斎の場合、そのほかにも、風景や花鳥をはじめ、あらゆるものを絵の題材としました。しかも、年を追うごとに表現の幅が広がり、ますます深化していくのは、真摯に絵と向き合い、精進を続けた北斎ならではの特徴です。浮世絵師の枠に収まらないほど、多彩さに満ちた北斎の画業をご紹介します。



左) ⑦葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」※展示期間:8/8~10/10
右) ⑧葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」※展示期間:6/11~8/7
江戸時代 天保2~4年(1831~33)

風景画ブームはここから始まった。

70歳を過ぎて生み出された衝撃の版画シリーズ。



[部分拡大図]

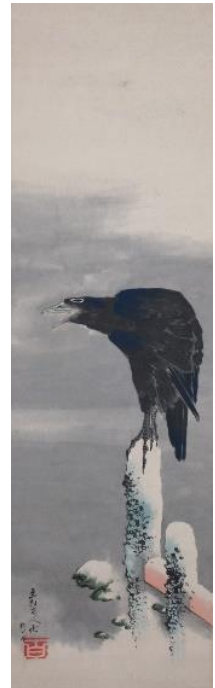
⑨葛飾北斎「四季耕作図屏風」江戸時代後期 19世紀初頭

四季の農村風景を描いたのどかな屏風絵に、北斎の穏やかな一面がのぞく。40代後半頃の作と考えられる。



⑩葛飾北斎「堀河夜討図」
江戸時代後期 19世紀前半

北斎60代、義経と弁慶が出陣する前の緊迫した場面を細密描写で描く。



⑪葛飾北斎「雪中鴉図」
江戸時代 弘化4年(1847)

ひとり鳴く鴉は北斎の自画像か。数え年88歳の力作。

喜多川歌麿(?~1806)

出生地は不明。少年の頃、江戸で狩野派の鳥山石燕に絵を学ぶ。版元の鳶屋重三郎と組み、版画や絵本の挿絵を精力的に発表。生涯に手がけた版画は2,000図以上といわれ、美人画の名手として人気を集めた。歌麿を対象とする幕府の禁令にも屈せず、挑み続けた反骨の絵師でもある。

葛飾北斎(1760~1849)

江戸本所(現在の墨田区)に生まれる。数え年19歳の時、人気浮世絵師の勝川春章に入門して絵を学ぶ。版画、版本、肉筆画制作のすべてに情熱を注いで森羅万象を描き、90歳の長寿を全うした。北斎のほか戴斗、画狂人、卍など度重なる改名、生涯に93回という転居癖をはじめ奇行も多い。

特集展示

五彩 一明の景德鎮窯を中心に

初公開作品も！ 色鮮やかな五彩磁器の世界

白磁に赤・緑・黄色などで絵付けし、低温で焼き付ける五彩は、中国陶磁史の最後に出現した技法で、明・清時代のやきものの主役です。本特集は、五彩の全盛期である明時代万暦年間（1573～1620）を中心に、金時代の宋赤絵から清時代後期の豆彩まで、13～19世紀の五彩の流れをたどり、祥瑞や漳州窯の赤絵など日本の茶人たちが好んだ作品も併せて、約20件を展示します（初公開2件含む）。皇帝を示す龍や福を意味するコウモリなど、中国文化を象徴する文様を色とりどりに描いた、華やかな五彩磁器の世界をお楽しみください。



「五彩龍文面盆」景德鎮窯
中国・明時代 万暦年間（1573～1620）



⑫「五彩百蝠文壺」景德鎮窯
中国・明時代 万暦年間（1573～1620）



「五彩獅子文盤」漳州窯
中国・明時代 17世紀

会期中のイベント

参加費無料（要入館料）／定員あり

開館10周年記念 特別企画 ※事前申込 TEL：0460-87-3931

● 特別対談！河野元昭氏と小林忠館長が語る歌麿・北斎

日時：2023年9月30日（土）13:00～14:30

河野元昭氏

1943年生まれ

東京大学名誉教授、静嘉堂文庫美術館館長

専門分野は日本近世絵画史

「饒舌館長」として親しまれる



講演会 ※事前申込 TEL：0460-87-3931

● 歌麿の「雪月花」3大幅

日時：2023年7月29日（土）13:00～14:30

講師：小林 忠（岡田美術館 館長）

● 北斎の「富嶽三十六景」と『富嶽百景』

日時：2023年10月28日（土）13:00～14:30

講師：小林 忠（岡田美術館 館長）

関連講座 ※申込不要

● 歌麿と北斎の美人画

日時：2023年8月26日（土）13:00～14:30

講師：稲垣 朋子（岡田美術館 学芸員）

関連スライドトーク ※申込不要

● 五彩の歴史 宋赤絵から豆彩・粉彩まで

日時：2023年7月1日（土）13:00～14:00

講師：佐藤 有沙（岡田美術館 学芸員）

【開催要項】

展覧会名 開館10周年記念展 第2部「歌麿と北斎 —時代を作った浮世絵師—」
会期 2023年6月11日（日）～12月10日（日）
休館日 会期中無休
主催 岡田美術館
所在地 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1
開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
入館料 一般・大学生2,800円（2,550円） 小中高生1,800円（1,550円）
※（ ）内は前売り料金。前売券（JTBレジャーチケット、チケットぴあ）は、
主要コンビニエンスストア並びにチケットぴあにて販売

ギャラリートーク ※申込不要

◎館長によるギャラリートーク

2023年6月22日・7月6日・8月24日、9月7日、10月12日、11月9日・30日
いずれも木曜日13:30～

◎学芸員によるギャラリートーク

2023年6月23日～12月1日
毎週月・金曜日11:00～ 月曜：常設展示、金曜：歌麿と北斎

— 2023年秋に開館10周年を迎える当館からの、感謝の気持ちを込めた特別企画 —

● 10周年の感謝をこめて お誕生日ペア特別ご招待

誕生日当日のご本人様と同伴者1名様まで入館料が無料に！

※期間：2023年12月10日まで

※受付にて身分証明書をご提示ください。

● 見て・食べて・買って オリジナルエコバッグをGET

入館、開化亭、足湯カフェ、ミュージアムショップ、すべてのご利用でエコバッグをプレゼント！

※期間：2023年4月1日～12月10日

※数に限りがあり、なくなり次第終了とさせていただきます。

【次回展予告】

「金屏風の祭典 —黄金の世界へようこそ—」

2023年12月17日（日）～2024年6月2日（日） ※会期は変更になる場合があります

【本件に関するお問い合わせ先】

岡田美術館 広報担当：近森・高橋・山本

TEL：0460-87-3931 FAX：0460-87-3934 E-mail：pr@okada-museum.com

※展示替えによる休館中（6月5日～10日）は留守番電話となります。お問い合わせは上記メールアドレスをご利用ください。

【岡田美術館について】

岡田美術館は2013年10月、箱根・小涌谷に開館しました。全5階、展示面積約5,000㎡という屋内展示面積としては箱根随一を誇る広大な館内に、日本・東洋の陶磁器や絵画などの美術品を常時約450点展示しています。日本で受け継がれてきた美術品を大切に守り、美と出会う楽しさを分かち合い、次代に伝えたい、との願いから、美術館が構想されました。美術館の正面を飾るのは、現代日本画家・福井江太郎氏によって描かれた縦12m、横30mに及ぶ風神・雷神の大壁画「風・刻（かぜ・とき）」（2013年）です。他にも深見陶治氏、諸井謙司氏、樂雅臣氏など、現代作家の作品が屋内外に展示され、来館者をお迎えます。その他付帯施設もお楽しみください。



大壁画

琳派の祖ともいえる俵屋宗達の「風神雷神図屏風」をもとに、日本画家・福井江太郎氏が現代に甦らせました。構想も含め5年の歳月を掛けて制作した大壁画「風・刻」が、皆様をお迎えます。

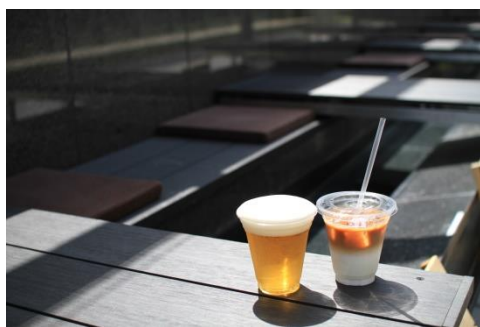
⑬美術館外観



開化亭

昭和初期の日本家屋を改装した風流な飲食施設「開化亭」は、明治半ば、この地にあった外国人向けホテルにちなんで名づけられました。趣ある古いガラス戸の向こうには、2か所に滝が流れ落ち鯉が回遊する池と、季節によって表情を変える庭園の木立が広がっています。「名物豆アジ天うどん」をはじめ、各種ドリンクなどをご用意しています。

⑭開化亭



足湯カフェ

風神・雷神の大壁画を前にした100%源泉かけ流しの足湯カフェでは、コーヒー、ビール、おしるこなどをお楽しみいただけます。なかでも、静岡県産の茶葉を使用した和紅茶は、「食のオスカー」とも呼ばれる『Great Taste Awards（英）』で金賞を受賞した逸品です。

⑮足湯カフェ



ミュージアムショップ

「美術館の感動を日常でも楽しめる」をコンセプトに、さまざまなオリジナルグッズをご用意しています。なかでも、当館で人気を誇る喜多川歌麿と葛飾北斎のグッズは、種類を豊富に取り揃えています。気に入った作品をぜひお手元でお楽しみください。

チケットホルダー：480円、一筆箋：420円
A4クリアファイル：380円 ※すべて税込

⑯ミュージアムグッズ

歌麿と北斎 — 時代を作った浮世絵師 —

広報用画像

広報用画像をご使用の際は下記の点にご注意ください。

- * 写真データの使用は本展覧会の紹介目的に限り、二次使用や改変（部分使用含む）は行わないでください。
- * ご使用後 2 週間以内に、当館より貸与した写真データ（以下原データという）を記録した媒体は当館に返却のうえ、保有する原データ（作業上発生したすべての原データの複製物及び複製データを含む）は消去してください。
- * web 掲載の際は「画像写真の無断転載を禁じる」旨を表記してください。
- * 作品写真には「岡田美術館蔵」、作者名、作品名、制作年ほか当館の指定する項目を表記してください。
スペースに限りがあり、すべての記載が難しい場合は別途ご相談ください。
- * ご紹介いただく際は、本展の基本情報（日時・会場・電話番号・写真キャプションなど）の確認のため、校正を岡田美術館広報担当者までメールまたは FAX でお送りください。校正期間は中 3 営業日を基本として返答させていただきますので、期間に余裕をもってご送付ください。大変恐縮ではございますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
- ※ 下記素材以外の写真データが必要な場合は、別途お問い合わせ願います。

			
① 展覧会メインビジュアル	② 三美人図（部分）	③ 芸妓図（部分）	④ 夏の朝（部分）
			
⑤ 傾城図（部分）	⑥ 深川の雪（部分）	⑦ 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏	⑧ 富嶽三十六景 凱風快晴
			
⑨ 四季耕作図屏風（部分）	⑩ 堀河夜討図（部分）	⑪ 雪中鴉図（部分）	⑫ 五彩百蝠文壺
			
⑬ 美術館外観	⑭ 開化亭	⑮ 足湯カフェ	⑯ ミュージアムグッズ

FAX

0460-87-3934

E-mail

pr@okada-museum.com (岡田美術館 行)

歌麿と北斎 一時代を作った浮世絵師 — 広報用画像データ貸出申込書

プレスリリースをご参照の上、ご希望の写真 No. に✓印をお付けください。

✓	No.	掲載時のキャプション
	1	展覧会メインビジュアル
	2	喜多川歌麿「三美人図」(部分) 江戸時代中期 18~19世紀 岡田美術館蔵
	3	喜多川歌麿「芸妓図」(部分) 江戸時代中期 18~19世紀 岡田美術館蔵
	4	葛飾北斎「夏の朝」(部分) 江戸時代後期 19世紀初頭 岡田美術館蔵
	5	葛飾北斎「傾城図」(部分) 江戸時代後期 19世紀前半 岡田美術館蔵
	6	喜多川歌麿「深川の雪」(部分) 江戸時代 享和2~文化3年(1802~06)頃 岡田美術館蔵 ※展示期間: 9/8~12/10
	7	葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」江戸時代 天保2~4年(1831~33) 岡田美術館蔵 ※展示期間: 8/8~10/10
	8	葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」江戸時代 天保2~4年(1831~33) 岡田美術館蔵 ※展示期間: 6/11~8/7
	9	葛飾北斎「四季耕作図屏風」(部分) 江戸時代後期 19世紀初頭 岡田美術館蔵
	10	葛飾北斎「堀河夜討図」(部分) 江戸時代後期 19世紀前半 岡田美術館蔵
	11	葛飾北斎「雪中鴉図」(部分) 江戸時代 弘化4年(1847) 岡田美術館蔵
	12	「五彩百蝠文壺」景德鎮窯 中国・明時代 万暦年間(1573~1620) 岡田美術館蔵
	13	美術館外観
	14	開化亭
	15	足湯カフェ
	16	ミュージアムグッズ

申し込みフォーム *お名刺の添付でも構いません

貴社名			
媒体名			
ご担当者様名		TEL	
部署名		FAX	
E-mail			
ご住所	〒 —		
放送・掲載内容			
放送・掲載予定日	年 月 日	画像データ 必要期限	年 月 日
放映エリア／発行部数			
弊社社内ネットワークへの当該記事 PDF の掲載可否	可 / 否	その他、掲載条件	

★プレゼント用招待券をご希望の方は、別途広報担当にご相談ください